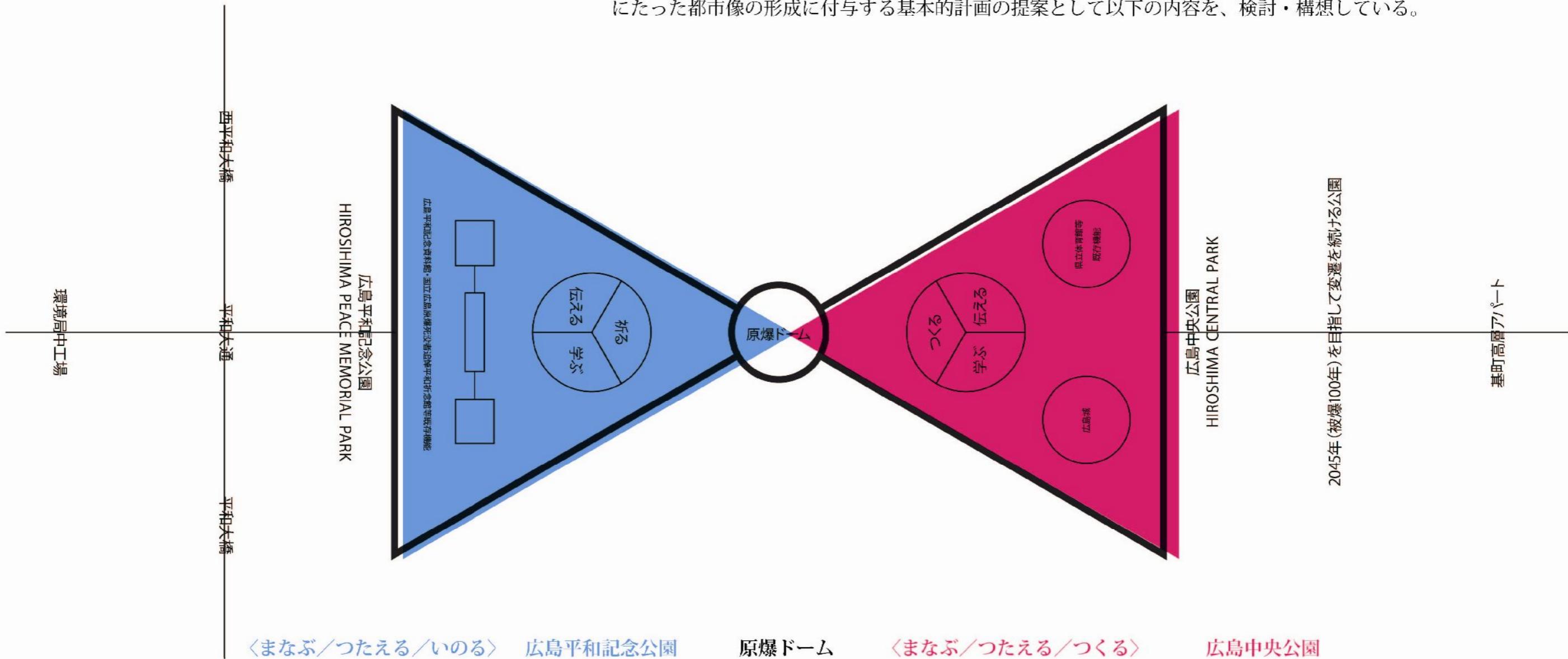


Hiroshima Creative Park



〈まなぶ〉社会教育機能

文化は長い時間の流れの中で、醸成されていくものであり、市民が文化や芸術を享受し、やがてその担い手になるためには、まずこれまでの歴史を学ぶ必要がある。広く公のための教育学習環境としては、学校教育に対する社会教育の仕組みが妥当であり、その中心的機能は、図書館等のライブラリー機能にある。市内にある下記図書館等ライブラリー機能を集約・統廃合して機能を強化する。

- 中央図書館
- こども図書館
- まんが図書館
- 映像文化ライブラリー
- 公文書館など

まなぶ



〈つくる〉文化芸術創造機能

異なる利用者のための〈つくる〉プログラムを同時並行して実施し、その様子を周囲からも見られるようにする。プログラムの難易度や実施期間によって、様々な指導者、技術者をセットする。

- 1時間プログラム
修学旅行生・一般観光客向の体験プログラム。
例：オリガミ・ワークショップ。灯籠絵付け体験。
市民向のウィークリー・プログラム。
例：専門性の高い市民創作工房講座。

- 1日プログラム
市民・一般観光客向のプログラム。
例：ものづくり企業視察（午前）+工房での創作ワークショップ（午後）。音楽・ダンス・パフォーマンスなどの上演芸術のイベント的プログラムによる創作など。

つくる

〈つたえる〉人的交流機能

ここでは、人的交流が重要なミッションとなる。市民・県民のうち若者のための〈つたえる〉機能として青少年センターが中心的役割を担う。なお、全世代向けの交流・社会教育施設としては、公民館や区民センターなどが各地域にあるため、球場跡地における〈つたえる〉機能は、区外・市外・海外といった外部との人的交流に注力が必要となる。

- 青少年センター
- 留学生会館
- 国際青年会館など

つたえる

- 1週間プログラム
国内外の学生向の集中プログラム。
例：海外からの学生を受け入れ、広島の学生と交流しながら行う創作プログラム。
- 1ヶ月プログラム
プロフェッショナル向のプログラム。
例：若手アーティストへの滞在制作環境の提供。
- 1年プログラム
プロフェッショナル向のプログラム。
例：スポンサーシップによる仮設工房の提供。ヒロシマ賞受賞作家による現地制作プログラム。市内美術館等での展示作品現地制作・過程公開プログラム。

